

# 桂城短大、文部省一次申請認可 夢をのせて校舎建設着工へ

十二月十四日午後、市へ秋田桂城短期大学の第一次設置認可申請が通ったとの連絡が入りました。

高等教育機関の空白地となっていた県北地区への短大設置は、地域全体の夢でしたが、五年四月に秋田職業能力開発短期大学校（労働省所管）が開校したのに続き、文部省所管である秋田桂城短期大学が、八年四月開学に向けて大きな壁を越えたことになります。大きな夢が、いよいよ現実のものになるうとしています。

## 校舎建設

### 1月中にもスタート

平成六年四月、学校法人秋田経済法科大学は、秋田桂城短期大学の八年四月開学を目指し文部省へ設置申

請（第一次秋田桂城短期大学設置認可申請）しました。そして十二月十四日、この申請に対し文部省の諮問機関である大学設置・学校法人審議会から「合格」（申請認可）の判定が下され、市へも連絡が入りました。これにより秋田経済法科大学は、一月中にも桂城短大の校舎建設に取りかかり、六月には第二次申請をすることになっています。

大館市への高等教育機関誘致運動は、県北地区に文部省所管の大学・短大が無かったため、かねてから地域の若者・父兄からは設置の要望が強かったこと、また、経済界からは地域に根ざした専門的、実務的な人材の供給が求められていたことなどにより、地域を挙げての精力的なものになっていました。

そして、県立大館南高等学校と県立大館東高等学校の統合計画（四年三月統合）を契機に、学校法人秋田経済法科大学への短大誘致運動が急浮上しました。地域の住民や商工団体をはじめ、各種団体は市と市議会へ設置を陳情。

三年三月議会で採択され、二年間にわたる誘致運動の結果、四年十二月、学校法人秋田経済法科大学は大館市に短大を設置することを決定しました。以後、学校地の選定、学長候補者の決定、短大の名称公募・決定、教育課程の決定などを経て第一次申請となり、認可されたものです。

## 最終判定は12月

### 気を緩めずに前進

桂城短大は、清水二丁目の市有地（旧秋田技能開発センター跡）に建設されます。校舎敷地面積は約三万平方メートル。また、グラウンドは高館下地内に設置され、面積は約一万平方メートルです。学科は看護（三年制・一学年五十人）、人間福祉（二年制・一学



桂城短大の完成予想模型

年四十人）、地域社会（二年制・一学年百人）の三つで、学生総定員は四百三十人。教職員を合わせ約五百人が大館で生活することになります。開学後は毎年二百人余が社会へ巣立つことになり、大館市のイメージアップや地域の発展に大きく貢献してくれるものと期待できます。

しかし、第一次審査をクリアしたとはいえ、八年開学という目標達成のためにはまだ第二次審査、更に今年十二月の最終判定（設置審議会答申）を待たなければなりません。最終のゴーサインが出されるまで気を緩めず、地域が一丸となった熱意を示す必要があります。なお一層のご理解とご支援をお願いします。

秋田桂城短期大学 文部省第一次申請認可

新年に夢実現・校舎建設着工ノ



さっそく垂れ幕を下ろし、喜びの万歳三唱